保険・年金フォーカス

アジアの先進生保市場：NIEs

―各市場の概況とその特徴点について―

保険研究部兼経済研究部　上席研究員　アジア部長　平賀　富一
(03)3512-1822　hiraga@nli-research.co.jp

1――アジア NIEs 生保市場の概況

アジア NIEs（シンガポール・香港・台湾・韓国：新興工業経済地域 Newly Industrializing Economies）は生命保険の分野においてもアジア域内の先進保険市場となっており、以下ではその概況や特徴点などについて述べる。

図表－1にあるようにNIEsにおける生命保険の普及度は、その4カ国・地域の平均で、収入保険料の対国内総生産（名目GDP）比が平均10.1%と日本の9.2%を超え、また一人当たり収入保険料も平均2,570ドル、特に香港は4,038ドルと日本の4,137ドルに近い水準にあり相当成熟した保険市場となっていることが分かる。経済規模（GDP）を見ると、韓国が世界15位にランクされる以外は、人口の少ない小国・地域のため、台湾27位、シンガポール36位、香港39位となっているが、生保の収入保険料規模では、韓国7位、台湾9位、香港18位、シンガポール27位で、経済規模に比して上位にランクされている。また、一人当たりGDPでは、シンガポールが5万ドル超と日本を上回る水準にあり、香港が3.7万ドル、その他も2万ドル以上の水準にある（参考データとして、わが国の一人当たり県民所得データと比べてみると、静岡県が3万ドル強、沖縄県が2万ドル弱の水準であり、シンガポールを除く香港・台湾・韓国についても相当な経済発展度にあるといえる）。

図表－1 アジア主要国の経済・生保等の主要指標（2012年）

	人口（百万人）	名目GDP（10億ドル）	一人当たりGDP（ドル）	生保収入保険料（百万ドル）	一人当たり収入保険料（ドル）	収入保険料/GDP（%）	生保会社数（生損保兼営等を含む）	国際競争力ランキング		財政収支/GDP（%）	高速インターネット接続速度（Mbps）
								WEF	IMD		
シンガポール	5	277	51,162(36)	12,394(27)	2,333	4.5	20	2	5	2.0	50.1
香港	7	263	36,667(39)	28,895(18)	4,038	11.0	63	9	3	3.5	65.4
台湾	23	474	20,328(27)	72,571(9)	3,110	14.5	31	13	11	▲ 2.5	42.7
韓国	50	1,156	23,113(15)	105,872(7)	2,117	9.2	24	19	22	1.5	63.6
NIES4国・地域計	86	2,170	25,380	219,732	2,570	10.1					
ASEAN5計	522	1,936	3,707	36,331	70	1.9					
中国	1,372	8,227	6,076(2)	141,208(5)	103	1.7	70	29	21		11.3
（参考）日本	127	5,964	46,736(3)	524,620(2)	4,137	9.2	43	10	24	▲ 9.2	52.0

（資料）保険関連データはスイス再保険会社「Sigma No3/2013」（追補含む）、国際競争力はWEF、IMD、インターネット接続速度（ピーク時）はAkamai(2013年第3四半期時点）、その他は各国統計局、IMFデータによる。名目GDPと生保収入保険料のカッコ内の数字は世界ランク。ASEAN5はマレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム。

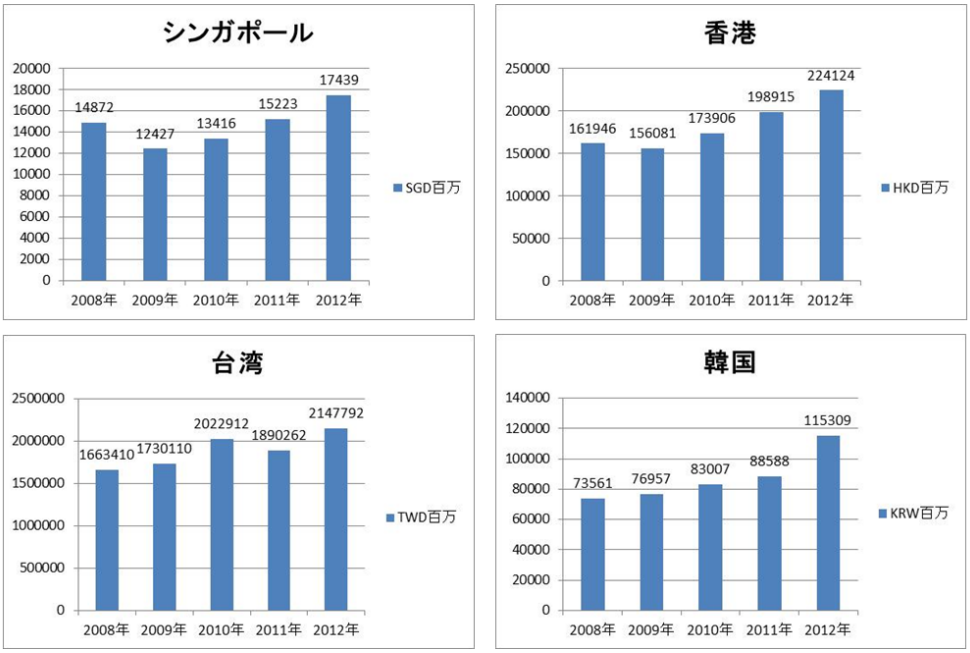
 Copyright ©2014 NLI Research Institute All rights reserved

また、経済・財政・インフラ・科学技術水準など国の発展度・安定度やビジネス環境の総合的な評価を基にした国際競争力の二大ランキング（WEF と IMD が実施）においても、世界のトップクラスの常連となっているシンガポール・香港を筆頭として上位に位置づけられている。

2――NIEs 生保市場の動向や特徴点

1｜保険料動向（商品・販売チャネルの動向を含む）

図表－2　生保収入保険料の推移

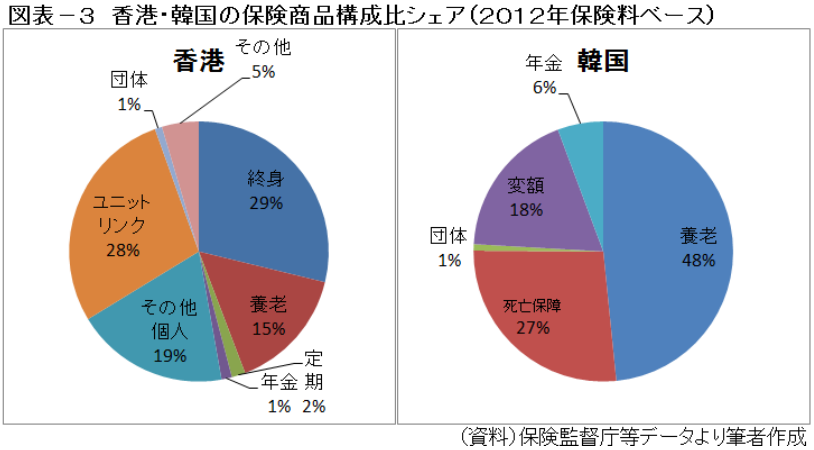


（資料）各国保険庁等データより筆者作成（為替レートは12年12月28日時点、SGD:シンガポールドル約71円、HKD:香港ドル約11円、TWD:台湾ドル約3.0円、KRW:韓国ウォン約0.08円）

収入保険料の推移（図表－２）を見ると全般的には漸増傾向であるが、シンガポール、香港における 09 年の減収が目立つ。この主因としては、両者が国際的な金融センター、世界貿易の中継点や多くの国際企業のアジア統括拠点の所在地でもある等対外的な影響をより強く受けるポジションにあることから、世界経済危機の影響を受け、商品面で、ユニットリンク保険等投資目的の商品（特に一時払商品）の販売の落ち込みの影響を受けたことが挙げられよう。13 年はユニットリンク商品等の販売にも回復傾向が見られているが、このように投資を主目的とする保険は、景気動向によってその販売が左右される面があり、今後もその傾向は続くものと推量される（例えば、香港でのユニットリンクの保険料シェアは、08 年 37%、12 年 28%と大きく変化している）。またこの点について別の角度から見ると、上記のようにシンガポール・香港においては投資型保険商品の販売を得意分野とする傾向にある欧米系の保険会社が市場において大きなマーケットシェアを有することもその要因となっていると考えることができよう。他方、台湾、韓国市場においては、上記投資型商品の占める割合は小さいものになっている（次ページの図表－３参照）。

Copyright ©2014 NLI Research Institute All rights reserved

図表－３　香港･韓国の保険商品構成比シェア（2012年保険料ベース）



（資料）保険監督庁等データより筆者作成

既に相当程度成熟したマーケットといえる NIEs 生保市場であるが、今後も中期的に堅調な保険料収入の伸びが予想されている。その理由としては、第一に、さらなる経済発展による富裕層・中間層の増加や生活水準の高度化による保障金額の増と保障内容の充実が挙げられ、高度な医療サービスを希望する顧客層への対応としての医療保険のカバーの充実などがその典型例と考えられる。二番目は、少子高齢化の影響である。NIEs はわが国に準じて少子高齢化の傾向が顕在化しつつあり、さらに女性の社会進出や核家族化も進んでいる。そのような環境下で世帯主はじめ各人の保障の充実や年金等による退職準備や老後の医療保障への準備の必要性が高まるものと考えられる。各国・地域において生保協会や各保険会社が必要な保障額と実際の加入金額のギャップを埋めることの必要性をアピールしている。加えて、元々子供の教育に熱心な NIEs の国・地域において少子化が進行する中では、教育資金の準備を目的とする保険商品への需要が大きいと考えられる。また、保険販売チャネルにおいては、シンガポール・香港ではエージェント、台湾・韓国では営業職員という伝統的なチャネルの存在感が大きいが、近年ではバンカシュアランス（銀行を通じた保険販売）も顕著な進展が見られている（特に新規契約ではバンカシュアランスの占率が大きく、保険料ベースのシェアは、シンガポールで約 35%、香港・台湾で 60%前後、韓国で約 50%といわれている）。その他のチャネルでは、ブローカーが企業団体保険市場で一定のポジションにあるが販売網全体での保険料シェアは１割以下と小さい。また電話やインターネットなどによる販売なども僅少である。しかしながら NIEs では、図表－１に掲げたように高速インターネットの普及や活用が進んでおり、その基盤を使って保険販売の面でどのような工夫や進展が見られるかはわが国としても注目すべきであると考えられる。

2｜企業動向

図表－４　NIES4生保市場における企業動向（2012年収入保険料ベースの上位10社のシェア）

	シンガポール		香港		台湾		韓国	
	会社名	%	会社名	%	会社名	%	会社名	%
1	AIA	20.5	HSBC Life	17.7	Cathay Life	22.7	Samsung	26.7
2	Prudential (UK)	18.1	AIA	14.6	Fubon Life	17.0	Hanwha	12.6
3	NTUC Income	18.0	Prudential (UK)	9.8	Nan Shan Life	15.0	Kyobo	11.1
4	Great Eastern Life	17.3	Manulife	7.7	Shin Kong Life	7.1	Nonghyup	9.5
5	Aviva	5.5	China Life	6.7	Chunghwa Post	6.4	Shinhan	4.5
6	OAC	4.1	BOC Group Life	5.5	China Life	5.1	Mirae Asset	4.4
7	Manulife	4.1	Hang Seng Insurance	5.0	Mass Mutual Mercuries	4.5	Tong Yang	4.0
8	HSBC Insurance	3.7	AXA China (Bermuda)	4.6	Taiwan Life	2.8	Heungkuk	3.7
9	Tokio Marine Life	3.4	FWD Life	3.8	BankTaiwan	2.3	ING	3.6
10	AXA Life Singapore	1.5	MassMutual	2.8	Allianz Taiwan Life	2.1	KDB	2.8

（資料）各国保険庁等データより筆者作成

次に各市場におけるマーケットシェアランキング上位の企業の顔ぶれ（図表－４）を見ると興味深い特徴が見られる。

Copyright ©2014 NLI Research Institute All rights reserved

シンガポール、香港というかつて英国の影響を受けた国・地域では、欧米系の有力企業のプレゼンスが大きい。同地での販売拠点を置くだけでなく多くの企業がアジア地域の統括拠点も設置している。その中で AIA（注）、Prudential（英国）、マニュライフ（カナダ）などは販売チャネルとしてエージェントを重視しており、その上でバンカシュアランスを実施している。また香港市場では、中国人寿や中国銀行といった中国本土の有力企業が拠点を設置しており、さらに人民元建の保険商品の販売が積極的に行われるなど中国本土との関係が深い点も重要である。

（注）AIA は現在は香港を本拠とする独立した企業であるが、かつては米国 AIG グループ傘下の有力企業であった。

他方、台湾、韓国においては、地場の有力企業の存在感が大きく外資系企業のシェアは小さい（特に市場の収益環境が厳しい台湾では外資企業の撤退事例も目立っている）。台湾では、Cathay（国泰）、Fubon（富邦）、Shin Kong（新光）など金融の各分野に強い有力企業グループの生保会社が上位を占めている。また韓国では、Samsung（三星）、Hanwha（韓火：旧称は大韓生命）の財閥（チェボル）系２社と Kyobo（教保）の 3 社が市場の約 5 割を占めており、これらは営業職員を重要な販売チャネルとしている。また各市場における中堅各社の多く（銀行系の保険会社も相当数みられる）はバンカシュアランスを主力販売チャネルとしている。

さらにシンガポールの NTUC が全国労働組合会議系、台湾の Chunghwa Post（中華郵政）が郵便事業系、韓国の Nonghyup が農協系と特殊な位置づけと影響力を有する企業が上位にランクインしている。また台湾・韓国市場の地場企業についても、多くの台湾企業の中国本土への進出をはじめ、ベトナム等アセアン諸国への展開事例が見られている。

3――まとめ

以上、本レポートでは、中国・インドという巨大な人口を有する国や、近年日本企業の進出先として改めて再評価される傾向にあるタイ、インドネシア、ベトナムなどアセアン（東南アジア諸国連合）の諸国に比べれば注目度が低いと思われる NIEs の４カ国・地域に焦点を当ててその生保市場の概況・特徴などを述べた。

上記のように４つの市場はアジア域内における先進保険市場であるが、それぞれが特色を有しており、また少子高齢化対応などわが国と共通の課題にも直面しつつある。

シンガポール・香港は国際的な金融市場、多くの国際的企業のアジア地域統括拠点の所在地など優れたビジネスインフラで高い評価を受け、台湾・韓国は世界的な電気・電子産業の重要拠点としての位置づけを有しており、日本にとっても、産業や生活の様々な面における IT 技術の活用のあり方など参考にすべき点が多いと思われる。さらに、シンガポール・香港の生保市場は欧米の有力保険会社が様々な保険商品や販売手法を持ち込み競合しており、いわば「ショーケース」ともいえる状況にもある。このような NIEs 各市場の動向は、アジア最大の生保市場であるわが国としても注目に値するものと考えられる。

| Copyright ©2014 NLI Research Institute All rights reserved